

【話 題】

富山県産優良無花粉スギ「立山 森の輝き」の普及開始

斉藤 真己^{*1}

富山県森林研究所では、これまでにスギ花粉症対策の一環として無花粉スギ「はるよこい」を品種登録し、平成23年から都市部の緑化用として普及が始まっているが、同時進行で図-1に示したように精英樹を交配親とする造林用の優良無花粉スギ「立山 森の輝き」の開発も行ってきた。

無花粉になる雄性不稔性は、一対の劣性遺伝子 (aa) によって支配されており、メンデル遺伝することから、最初に発見された無花粉スギの母樹 (aa) と雄性不稔遺伝子をヘテロ型 (Aa) で保有する富山県の精英樹・小原13号を交配し、この集団の中から9年かけて無花粉で初期成長と通直性に優れた1個体 (F_1 小原13) を選抜した。この F_1 個体に石川県の精英樹・珠洲2号 (Aa) を交配して得られた無花粉スギが「立山 森の輝き」である。

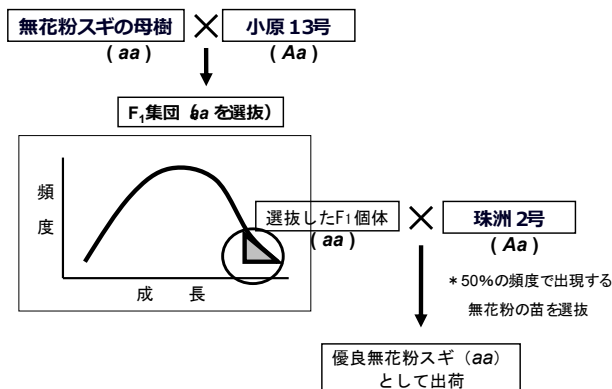


図-1 「立山 森の輝き」の交配家系図

従来の富山県の品種であるタテヤマスギ（実生）やマスマスギ（さし木）などと一緒に検定林を造成し生育調査をしているが（写真-1）、現状では「立山 森の輝き」が最も成長は早く、雪害による枯損率や幹折

れ率も既存品種より劣ることはないことから、少なくとも初期成長については従来の「タテヤマスギ」と同等以上と考えられる。



写真-1 無花粉スギの検定林（平成25年2月26日撮影）
平成22年4月に無花粉スギ2品種（立山 森の輝き、はるよこい）と通常のスギ2品種（タテヤマスギ、マスマスギ）で造成した検定林の様子。「立山 森の輝き」は初期成長が早いと雪から出ている（赤い矢印）。「マスマスギ」や「はるよこい」は、ほとんどの個体が雪の中である。

「立山 森の輝き」の普及の第一歩として、その植樹イベントが平成24年11月10日に立山町座主坊で行われた（写真-2）。富山県知事出席のもと、森林ボランティアや地元の小学生ら約150人が参加し、約300本の苗を植樹した。その後、氷見市や南砺市など富山県内5箇所でも約5,000本の苗を造林用として植樹した。

また、富山県だけでなく無花粉スギを全国に広くPRするため、平成25年2月21日に東京日比谷公園でも「立山 森の輝き」の植樹イベントを開催した（写真-3）。富山県の石井知事や林野庁の沼田長官、東京都の

* E-mail: saito@fes.pref.toyama.jp

¹ 斉藤 真己 富山県農林水産総合技術センター森林研究所

安藤立美副知事が出席し、セレモニーを行った。当日は各テレビ局や新聞社などが多数集まり、大変、盛況だったことから、無花粉スギに対する関心は高く、本イベントを開催した意義は大きかったと思われた(写真-4)。

現在、「立山 森の輝き」の種子は、室内ミニチュア採種園で生産されており、年間3万本程度の苗木生産が可能になっている(写真-5)。



写真-2 「立山 森の輝き」の植樹イベントの様子



写真-3 東京日比谷公園で行われた「立山 森の輝き」の記念植樹の様子

左から、林野庁・沼田長官、富山県・石井知事、著者、東京都・安藤副知事、とやま特産大使

また、富山県では新たな森づくりの取り組みとして、優良無花粉スギ「立山 森の輝き」普及推進事業(H24～28)を進めており、スギ人工林の伐採跡地へ「立山 森の輝き」を植栽して頂ける森林所有者の方には、苗木

代や地植えなどの植栽にかかる経費を全額補助することになっている。



写真-4 日比谷公園での取材の様子
中央にいるのが富山県・石井知事

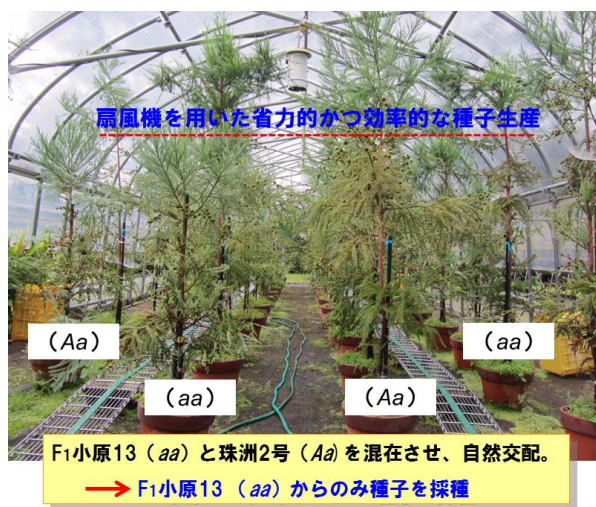


写真-5 「立山 森の輝き」の室内ミニチュア採種園

以上のように、無花粉スギ「はるよこい」や「立山 森の輝き」が安定的に富山県内に普及され始めたことから、今後、これらの植栽面積が増加するにつれて、緩やかではあるが、将来の確実なスギ花粉飛散量の軽減に繋がると期待される。